

SAFに関する取組みについて

2022年4月22日 SAF官民協議会

コスモ石油株式会社

当社における国産SAF製造事業の取組み

2020年10月より廃食用油を原料とするSAF製造の事業化検討に参画。2021年7月にNEDO助成事業※に採択され、新規設備の基本設計を開始。今秋までに基本設計を終了し、装置建設を開始予定。脱炭素社会・資源循環社会の実現に向けた注力事業として、2025年に供給開始する計画で取り組んでいる。

※事業名：国産廃食用油を原料とするバイオジェット燃料製造サプライチェーンモデルの構築

<事業概要>

原料	: 廃食用油 (プロセス: HEFA ASTM D7566 Annex2)
製造場所	: 当社 堺製油所
生産数量	: 最大3万KL/年 (Neatベース)
パートナー	: 日揮ホールディングス (事業統括、装置建設等)、レポインターナショナル (廃食用油収集等)
当社役割	: プラント操業から製品の品質管理、貯蔵、輸送、給油まで、サプライチェーンにおける広範な機能・ノウハウの提供

◆事業スキーム概要 (2021.8.2プレスリリースより)



- ・ 国内での商用ベースでの第1号案件として確実に当事業をやりきり、SAF製造の安全操業・安定供給のノウハウをいち早く蓄積していく。
- ・ 本年4月、当社組織改編によりCNに向けた事業検討・事業推進を手掛ける専門チームを創設。今後のSAF事業の展開（事業規模拡大、原料多様化等の検討等）を加速させていく。

SAF製造事業における課題認識と対策

◆SAFの普及促進に向けた課題



（2022年2月「航空分野におけるCO2削減取組に関する調査検討委員会」燃料小委員会資料より）

✓ 原料の安定的確保（数量面）

課題：①今後世界中でSAF需要の高まりが確実視される中、確実に原料収集ができるのか。

- 対策：
- ・ 廃食用油に関し、当社パートナー企業を通じ、大手排出元企業からの将来的な引取りにつき協議中。
 - ・ 国内の廃食用油は絶対量が限られるが、SAF需要の拡大に対応するため、原料の多様化を検討する。
 - ・ 21年度にSAFサプライチェーン全般（輸入含む）について点検実施済み。

✓ 事業性の成立（価格面・取引数量面）

課題：②SAFの生産コストは高くなるが、ステークホルダー全員の事業性・経済性が成立するか。

③SAFの供給者側と利用者側で、持続可能な取引（継続的な売買）を構築していけるか。

- 対策：
- ・ 事業継続において大前提となる安定供給体制を確実に構築する。（現在はそのノウハウを蓄積）
 - ・ オフテイクとの将来的な取引に向け、具体的な売買条件や期間等について協議予定。
 - ・ SAF普及に向けた政策支援の訴求。（事頁参照）

当社としては現在遂行中のSAF製造案件を確実に仕上げ、SAFに関連するノウハウを蓄積した上、さらなる事業拡大も視野に検討を進めてまいります。
国産SAF普及の実現には政策によるバックアップも必須であり、以下の点を要望いたします。

1. 国内資源循環の強化

- ・ 国内の資源循環を強化し、国内バイオ資源がより多く収集・回収され、それらがSAF生産の原料として積極的に利用されるような環境整備を要望する。

2. 設備投資の税制優遇

- ・ 現状設備投資の優遇措置としてカーボンニュートラル投資促進税制が存在するが、生産設備にSAFが入っていない。「大きな脱炭素化効果を持つ製品の生産設備」に、SAF製造設備、原料貯蔵設備等の追加を要望する。

3. 国産SAF製造者に対するインセンティブ

- ・ SAF国産化の促進には「国内製造」へのインセンティブが必要。国産品のCO2削減効果に応じた法人税額控除の仕組みや、製造段階におけるCO2排出量の取扱い方法（LCAでの削減効果を製造者にも割り当てるなど）のルール整備を要望する。

ACT FOR SKYへの加盟

本年3月、国産SAF普及に向けた有志団体“ACT FOR SKY”に初期メンバーとして加盟。SAF関連情報の発信等のアクションを通してその認知度を向上させ、製造者・原料供給者・利用者・その他ステークホルダーの垣根なく“仲間の輪”を広げていくことを目指す。

◆ACT FOR SKY

2022.3.2に設立（加盟数：16社）

